



授業づくりの視点

身に付けたい力を育成するために、価値ある言語表現に着目し、考え、表現できるよう言語活動を設定しましょう。

「読むこと」の領域では、「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成、共有」という学習過程における指導事項を確認した上で、単元のまとまりで授業を構想しましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 「走れメロス」の魅力について、意見交流会をしよう【第2学年】 C読むこと

作品の魅力について、読み取ったことを知識や経験と結び付けて自分の考えをまとめ、その意見を交流することを通して、自分の考えを広げたり深めたりする単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに、発表したり文章表現したりすることを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。

思考力、判断力、表現力等

複数の情報を整理しながら、登場人物の言動の意味などを考え、解釈した内容や考えたことを既習の知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする。

学びに向かう力、人間性等

目的や意図に応じ、内容や表現の仕方に注意して文章を読み、自分で言葉を選び豊かに表現しようとする。

3 単元のデザイン

全8時間

本単元の流れ	生徒の学びの姿
単元の見通しをもつ 作品全体の内容をつかむ	◎意見交流会に向けて作品の魅力をもとめるといふ単元全体のイメージをつかむ。 ・自分の好きな名言や名場面を選び、みんなの感想が聞けておもしろそうだ。
名言や名場面の感想を交流して自分の考えを広げ深める 本時 作品の魅力について自分の考えをまとめる	◎作品の中の名言や名場面を選び、理由を付けて班で発表し、お互いに感想を交流する。 ・自分とは違う見方があり、自分の考えを広げる参考になった。 ・友達の選んだ名言とその理由等を聞くと、自分も共感できるところがあった。 ・友達の意見に感想を伝えることで、自分の考えが整理できた。
意見交流会をする 単元のまとめをする	◎単元を通して学んだ作品の魅力をもとめ、自分の知識や経験と結び付けてまとめ、学級で意見交流会をする。 ・友達の意見を聞き、新しい発見があって作品の魅力をもとめ、自分で再考できた。 ・作品の魅力をもとめ、既習の読み方や語句を使うことができた。

◎本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 「意見交流会」という言語活動を通して、「読むこと」の単元への見通しをもたせる。
- 学習計画表等を基に単元で学習することを確認させる。

対話的な学び

- 名言や名場面を選び、選んだ理由を付けて発表し、お互いに感想を交流させる。意見を比較したり、理由を述べたりすることで考えを深められるようにする。

深い学び

- 知識や経験と結び付けて、価値ある言語表現に着目し、考えさせることで、豊かな表現にする。
- 思考を深めるために語彙集を示して活用させ、語彙力を養う。

自分の授業に取り入れて
みましょう。

本時のねらい

「走れメロス」の名言を選んで発表し、感想交流を通して、自分の考えをまとめることができる。

本時の流れ

生徒の学びの姿

教師の手だて

学習の見通し
をもち、本時
のめあてを確認するめあて
名言について
発表し、感想
を交流しよう班で自分の考
えを発表する友達の発表に
対して感想を
伝え合う学習内容をま
とめるまとめ
名言に着目し
て発表し、感
想を交流する
ことで、自分
の見方や考え
方が深まる振り返りをす
る◎学習計画表で前時を振り返り、
教師が例示した名言の発表の
仕方を見て、本時のめあてを
捉える。

- ・班発表を通して、自分の考えをまとめていくんだな。
- ・自分が発表するだけでなく友達の発表へ感想を伝えることが必要なんだな。

◎4人班になり、自分で選んだ
名言ベスト3を理由も付けて
発表する。

- ・自分と違う王様の言葉を選んでいておもしろいな。
- ・メロスの言葉は読み手を引き付ける力があるな。

◎発表のよかった点やその理由、
新しく気付いたこと等、お互
いに友達の意見について感想
を交流する。

- ・友達が選んだ「私も殴れ」の言葉とその理由を聞き、2人の友情の深さに気が付いた。
- ・先生のアドバイスで、メロスの言葉の意味が新たに読み取られて、考えがまとまった。

◎本時の学習を振り返り、次回
の学習への見通しをもつ。

- ・友達に自分の感想を伝えることで自分の考えが整理できた。次は名場面を学習するんだな。

主体的な学
びの手だて 学習計画表と名言
発表の型を例示す
ることで、本時の見通しとめ
あてをつかませる。

- 授業内容と家庭学習をつなぐために、宿題で発表用原稿を推敲させる。教師は机間指導の中で内容を確認して、できている内容に丸を付けたり、具体的にほめたりする。

対話的な学
びの手だて 他者の見方や考え
方を知り、自分の
考えと比較できるように4人
班で伝え合う場を設定する。
発表の際には、選んだ理由も
付けて発表させる。深い学びの
手だて 選んだ名言と解釈
が適切かどうかを
評価したり、語彙集を使用し
て、よりの確な表現はできな
いかを考えさせたりする。そ
の際、人物設定や場面展開等、
優れた表現に着目して、考え
るように助言する。見本とな
る表現は称賛して、全体へ紹
介する。

- 名言を選び、理由を付けて発表して感想を交流できたか、作品に対してどのような考えがもてたか等について、学びの振り返りをさせる。

Point

見通しをもたせ
めあてを確認単元の流れを示した
学習計画表等を基に、
本時の位置付けを確認
しましょう。その際、
身に付ける力を意識
して、何について学
習するのか等、見通
しがもてるようにし
ましょう。

Point

目的や意義を明確
にした話し合い生徒が考えを友達と
比較し自分の考えを
もつために、違いや
理由等を伝え合う機
会を設定しましょう。
目的や意義を明確に
し、教師がペアや班
等の適切な形態を設
定しましょう。

Point

「言葉」に着目
させる支援教師が個別に学びを
見取り、丸を付けたり、
助言したりして、学
びを価値付けましょ
う。その際、「言葉」
に着目して、理解さ
せたり、表現させたり
することを大切にしま
しょう。



授業づくりの視点

自分と社会との関わりを意識した課題を発見し、資料を集めて分析した後に、結果や分かったことをまとめる等の計画を立てる場面を設け、生徒が見通しをもてるようにしましょう。

課題について選択・判断したり、比較したりする際に、政治的な面から考えるとどうか、外国の立場から考えるとどうか等、多面的・多角的に話し合いができる授業づくりを工夫しましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 日本 の諸地域～中部地方～【第2学年】

中部地方の各産業がどのように発展・変化してきたかについて、位置や分布等の地理的な見方・考え方を働かせながら、その理由や経緯を追究し、現在はどうのような特色をもつ地域であるかを捉える単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

中部地方の三つの地域では、地形や自然環境等により異なる産業が発達したことを理解する。また、それぞれの地域の産業の特色を理解する。

思考力、判断力、表現力等

中部地方の地域的特色を、産業を中核とした考察をもとに多面的・多角的に地域的特色を捉え、その過程や結果を友達に分かりやすく表現する。

学びに向かう力、人間性等

中部地方の特色について、進んで思考・表現しようとしたり、社会的事象と自分との関連性に気付き、本単元で学習したことを自らの生活に生かそうとしたりする。

3 単元のデザイン 全5時間

本単元の流れ	生徒の学びの姿
単元の課題をつかむ	◎ 産業の視点から見た中部地方の特色に関心をもつ。 ・今までに習った他の地方と比べると、盛んな産業の特色が分かりそうだ。 ・中部地方には富士山があるから、観光業が発達しているのではないか。
東海地域で工業が発達した理由について読み取る 本時	◎ 東海地域で工業が発達した理由について、資料を根拠に予想する。 ・名古屋港があり、製品の輸送に便利だから、工業が発達したのではないか。 ・東海地域は人口が多いから、工場で働く人には困らないだろう。
名古屋大都市圏と他地域の結び付きについて理解する	◎ 中部地方と、世界との結び付きについて考えたことを伝え合う。 ・環太平洋経済圏構想により、ロシアや中国との交流が盛んになっているな。
単元のまとめをする	◎ 分かったことや考えたことをまとめ、今後の授業や自らの生活に生かす。 ・交通の便がよく、水が豊富に得られることは、工業以外の産業でも重要だ。 ・私達の地域にはインターチェンジがあるから、部品工場が多いんだな。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 人口や産業の集中等の社会的事象から課題を見いだす場を設定することで、学習課題を自分事として捉えさせる。
- 単元全体を学習記録を基に振り返らせ、次の単元につなげる。

対話的な学び

- 中部地方の産業の特色について自分の考えを友達に伝えた上で、自分の考えとの違いを比べる場を設定することで、自分にはない新しい視点に気付かせる。

深い学び

- 農業、工業、観光業等の産業が発達した理由について、その理由は他の産業についても言えることなのかを問うことで、考える視点を広げさせ、概念的な知識を獲得させる。

Point

生徒の疑問に基づいた問いの設定

社会的事象を提示し、「なぜ」「どのようにして」等生徒の疑問を大切にしてい問いを立て、めあてを自分事として捉えさせるようにしましょう。

Point

視点を広げる話し合いの場の設定

社会的事象についての考えを交流させる際には、友達のことを踏まえながら自分の考えを発表させる等、話し合いながら新しい視点に気付かせたり、自分の考え方を広げさせたりしましょう。

Point

他の社会的事象に応用できる発問

生徒が考えている内容について、他の社会的事象についても応用できるかどうかを考えさせる発問を行いましょう。

本時のねらい

東海地域で工業が発達した理由について、自然的条件や社会的条件と関連付けながら追究し、自分の考えをまとめることができる。

本時の流れ

本時のめあてをつかむ

めあて
なぜ東海地域で工業が発達したのかについて、資料を根拠に説明しよう

予想した理由について友達と比較し、自分の考えを発表する

工業が発達した理由を、既習の他の産業に当てはめる

学習内容をまとめる

まとめ
東海地域は交通の便がよく、水が豊富に得られる等社会的・自然的条件に恵まれているため、工業が盛んになった

振り返りをする

生徒の学びの姿

◎ **学習の見通しをもつ。**
・今日は中部地方の産業の中でも、特に東海工業地域について学習するのだな。
・前の単元で行った、資料収集の方法やまとめの仕方は、この単元でも使えそうだな。
・なぜ東海工業地域で工業が発達したのかな。理由を説明するためには、どんな資料が必要だろう。

◎ **予想した理由を裏付ける資料を選択し、それを根拠に互いに考えを発表する。**
・工業が発達したのは、Aさんが理由に挙げた名古屋港があることに加え、水を豊富に利用できる濃尾平野があるからだと思ふ。

◎ **工業発達についての考え方について、他の産業には応用できないかを検討する**
・交通の便がよいことや、人口が多くて働く人も多いこと、水が豊富にあること等は、農業にも必要なことだな。
・産業を発達させるためには、道路や河川のインフラ整備が必要だな。

◎ **学習して分かったことや、自分で考えたことをまとめる。**
・工業発達のためには、交通の便や資源だけでなく、歴史や伝統も関係しているんだね。
・他地域の工業発達の経緯についても、調べてみたいな。

教師の手だて

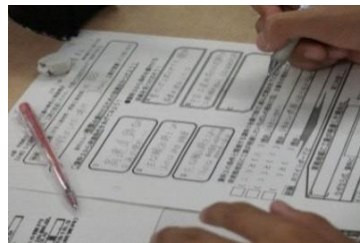
主体的な学びの手だて 東海工業地域を上空から撮影した動画を提示し気付きを発言させることで、本時の学習に見通しをもたせる。



対話的な学びの手だて 工業が発達した理由について、自分の考えやその根拠をもたせた上で話し合う場を設定し、友達のことを踏まえながら自分の考えを発表させる。

深い学びの手だて 「皆さんが挙げた工業発達の理由は、工業についてのみ言えることですか」と問うことで、既習の他の産業にも考えを巡らせる等、生徒の考える視点を広げさせる。

○次時の学習につなげるため、工業発達の理由について、新しく気付いたこと、考え方が変わったこと、もっと調べてみたいこと等を記述させる。





授業づくりの視点

数量の関係に着目する「見方」と、表、式、グラフ等を活用し、既習の知識、技能と関連付けながら論理的に考える「考え方」を働かせながら、より質の高い学びにつなげましょう。

「日常の事象を対象とした問題解決の活動」「表、式、グラフ等、数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動」といった数学的活動を充実させ、数学的に考える資質・能力を育みましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 変化と対応 [第1学年]

小学校算数の学習内容を踏まえ、変域を負の数まで拡張し、数量の変化や対応に着目して見いだした関数関係の特徴を表、式、グラフ等に表したり、関数関係を根拠に論理的に説明したりする力を養う単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

関数関係の意味、比例や反比例の意味、座標の意味について理解する。比例や反比例の関係を表、式、グラフ等に表す。

思考力、判断力、表現力等

伴って変わる二つの数量について、表、式、グラフ等を用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだす。具体的な事象を比例、反比例を用いて捉え表現する。

学びに向かう力、人間性等

比例や反比例と捉えることで問題解決できるよさに気づき、比例や反比例の関係を利用して大量にあるものの個数を求めたり、視力検査の仕組みを説明したりしようとする。

3 単元のデザイン 全18時間

本単元の流れ	生徒の学びの姿
関数関係を理解し、単元の見通しをもつ	◎ 伴って変わる二つの数量の関係について調べる。 ・ 小学校で習った比例や反比例と何が違うのかな。 ・ 一方が決まったらもう一方も決まるという関係が関数だと分かった。
比例の関係を調べる	◎ 比例の関係を表、式、グラフ等で捉える。 ・ 比例の関係は $y = ax$ という式で表されるということが分かった。 ・ グラフは原点を通る直線になるんだな。
反比例の関係を調べる	◎ 反比例の関係を表、式、グラフ等で捉える。 ・ 反比例の関係は $y = a/x$ という式で表されるということが分かった。 ・ グラフは双曲線というなめらかな曲線になるんだな。
比例や反比例の関係を利用して、身の回りの問題を解決する 本時	◎ 比例や反比例の関係を利用して、身の回りの問題を解決する。 ・ 比例の関係を利用すると、自分の待ち時間を予測できた。 ・ 視力検査に使う図に反比例の関係が使われていると知って驚いた。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 具体的な場面から課題を設定することで問いを引き出し、解決に向けて見通しをもって粘り強く取り組めるようにする。
- 単元を振り返り、関数の考えのよさを実感できるようにする。

対話的な学び

- 表、式、グラフ等、数学的な表現を用いて説明し合うことで異なる考えに気付いたり、考えの共通点を話し合うことで表、式、グラフを相互に関連付けて理解したりできるようにする。

深い学び

- 数量の関係に着目し、表、式、グラフ等を用いて特徴を捉え、比例や反比例の関係を見いだしたり、その特徴を利用して未知の状況を予測したりできるようにする。

自分の授業に取り入れて
みましょう。

Point

問いや見通しを
もたせる

具体的な場面を設定したり、既習事項との関連を示したりして、生徒の問いを引き出し、課題解決に向けた見通しをもたせるような導入を工夫しましょう。

Point

数学的な表現を
用いた話し合い

表、式、グラフ等、数学的な表現を用いて自分の考えを説明したり、友達の考えと比較したりして、新たな考えを見いだしたり、表現を洗練したりできるような話し合い活動を設定しましょう。

Point

学びの手応えを
実感させる

板書を基に学習過程と結果を確認し、本時で何をどのように学んだのかを自分の言葉でまとめられるようにして、生徒が学びの手応えを実感できるような振り返りの活動を工夫しましょう。

本時のねらい

ジェットコースターの待ち時間と乗った人数の関係を比例とみなし、比例の考えを基に乗るまでの時間を予測することができる。

本時の流れ

問題場面を知り、本時のめあてをつかむ

めあて
ジェットコースターに乗るまでの待ち時間を、数学を使って予測しよう

表やグラフを用いて関係を調べる

比例の関係であるとみなしてよいか判断し、その根拠を数学的な表現を使って説明する

比例の考えを基に、待ち時間を予測する

学習内容をまとめる

まとめ
二つの数量の関係を比例とみなすことで、比例の関係をj用いて未知の状況を予測できる

振り返りをする

生徒の学びの姿

◎問題場面から問いや、解決への見通しをもつ。

- ・自分は何時間待ったら乗れるのだろう。
- ・比例の関係であるといえるのなら、自分の待ち時間が予測できそうだ。

◎待ち時間と乗った人数の関係が比例かどうか調べる。

- ・表から比例の特徴があるかどうか調べてみよう。
- ・グラフに表してみよう。

◎比例の関係であるとみなしてよいか話し合う。

- ・待ち時間が2倍、3倍になると乗った人数もだいたい2倍、3倍になっているから比例だとみなしてよい。
- ・グラフの点はだいたい原点を通る一直線上に並んでいるから比例だとみなしてよい。

◎自分の待ち時間を予測する。

- ・待ち時間と乗った人数の関係を式で表し、並んでいる人数を代入すれば自分の待ち時間が分かる。
- ・自分の待ち時間をx分として、時間と人数についての比例式を解けばよい。

◎身の回りの問題には比例とみなすことで解決できることがあることに気付く。

- ・現実では、誤差やばらつきがあっても比例の考えが使えることが分かった。

教師の手だて

主体的な学びの手だて 長い行列に並んだ経験を想起させた上で問題文を示し、ジェットコースターに乗るまでの時間を予測できるかと問うことで、生徒に問いをもたせ、めあてをつかみやすくする。

- 変化の様子に着目させ、既習の比例の特徴を有しているかどうかを表やグラフで判断できることに気付かせる。

対話的な学びの手だて 表やグラフから捉えた特徴を根拠に自分の考えを説明し合い、待ち時間と乗った人数の関係が比例の関係であるとみなしてよいか判断する活動を設定する。



- 式に表して並んでいる人数を代入したり、並んでいる人数に対応するグラフの座標を読み取ったりして予測するよう伝える。

$$\begin{array}{l} \text{時間} \quad \text{人数} \quad \text{時間} \quad \text{人数} \\ 5 : 17 = x : 1532 \\ 17x = 7660 \\ x = 451 \end{array}$$

A およそ451分

〔比例式を使った解き方の例〕

深い学びの手だて 誤差やばらつきがあっても、比例の関係であるとみなすことで、未知の状況を予測できたことを確認して、関数が身の回りの問題の解決に利用されていることに気付かせる。



授業づくりの視点

生徒が見通しをもって課題や仮説の設定、観察・実験の計画の立案をしたり、観察・実験の結果を分析・解釈して仮説の妥当性を検討したり、振り返って改善策を考えたりする等の学習場面を設定しましょう。

課題の把握（発見）、課題の探究（追究）、課題の解決という探究の過程を通じた学習活動を行い、各過程において資質・能力を育成するようにしましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 運動の規則性 [第3学年]

観察、実験を通して物体の運動の規則性を見だして理解し、観察、実験の技能を身に付けるとともに、学習から見いだした「実験室で台車を等速直線運動させる」という課題を探究の過程を通して学ぶ単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

物体の運動を日常生活や社会と関連付けながら、運動には速さと向きがあることを知り、力が働く運動及び力が働かない運動についての規則性を見だして理解するとともに、それらの観察、実験等に関する技能を身に付ける。

思考力、判断力、表現力等

物体の運動について、見通しをもって観察、実験等を行い、その結果を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を見だして表現する。また、探究の過程を振り返る。

学びに向かう力、人間性等

物体の運動に関する事物・現象に進んで関わり、それらの事物・現象の理解が深まることによって見いだした等速直線運動に関わる課題を解決しようとする。

3 単元のデザイン 全10時間

本単元の流れ	生徒の学びの姿
単元に見通しをもち、運動の規則性について学ぶ	◎ 日常生活や社会と関連付けながら、観察、実験を通して、物体の運動について規則性を見いだす。 <ul style="list-style-type: none">運動には速さと向きの要素があり、記録タイマーで運動の様子が分かるね。物体に働く力によって等速直線運動をする等、運動の規則性があるね。
台車を等速直線運動させる方法について探究する ・実験の計画 本時 ・実験の実施・考察 ・表現（発表）	◎ 学習した内容や科学的に探究する方法を基に、見通しをもって粘り強く、科学的に探究する。 <ul style="list-style-type: none">台車にはたらく摩擦力について考えれば解決できそうだな。実験結果を基に改善策を考えて、再度実験をするとより考えが深まるね。
単元のまとめをし、振り返る	◎ 科学的に探究した活動を振り返る。 <ul style="list-style-type: none">日常でも等速直線運動をしている物体はたくさんあるね。課題を解決することって楽しいな。理科って面白いし、学ぶことが大切だね。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○台車を理論通り等速直線運動させるという課題について、見通しをもって実験計画を立てたり、実験を繰り返して改善策を考えたりする学習場面を設定する。

対話的な学び

○他の班と実験計画を比較し考えを広げ、より妥当なものにする。
○ポスターにまとめて発表させ、科学的な根拠に基づいた議論をする学習場面を設定する。

深い学び

○台車が等速直線運動をしない原因を関係的な視点で捉えさせたり、実験を計画する際に条件制御を意識させたりする。

本時のねらい

既習の知識や経験を活用して、実験室で台車を等速直線運動させるための実験計画を立てることができる。

本時の流れ

本時のめあてをつかむ

めあて
実験室で台車を等速直線運動させる実験を計画しよう

個人で考えた後、班で話し合い、考えられる原因を検討する

他の班の考えも参考に、より妥当な実験計画を立てる

レポートに実験計画をまとめ、実施に向け役割分担を行う

学習内容をまとめる

まとめ
実験室で実施可能な計画を話し合って立てることができた

振り返りをする

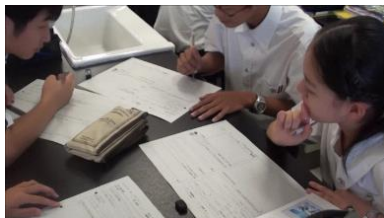
生徒の学びの姿

◎ **実験室で台車が等速直線運動を続けなかった実験を想起し、本時のめあてをつかむ。**

- ・実験室で、理論通り台車を等速直線運動させたいな。
- ・1時間でできる実験にするためにどのような方法ができるのかな。

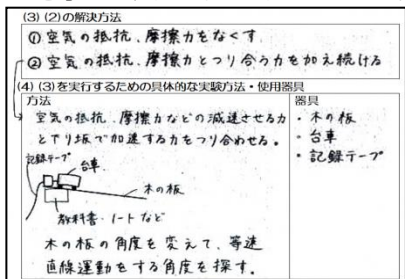
◎ **台車が等速直線運動を続けない原因を、既習の知識や経験を活用して考える。**

- ・空気抵抗や床と台車との摩擦が原因じゃないかな。



◎ **実施可能な実験計画を立て、レポートにまとめる。**

- ・斜面を下る台車には一定の大きさの力が加わっていたね。
- ・斜面の傾きを変えて摩擦力と同じ大きさの力を加えよう。
- ・他の班は、洗剤を塗って摩擦を小さくしようとしていたよ。



〔レポートの例〕

◎ **実験計画をまとめたレポートを基に、学習を振り返り、次時への見通しをもつ。**

- ・授業で習ったことを使って考えることが大切だね。
- ・摩擦を減らす方法は考えられたけどうまくいかなかった。

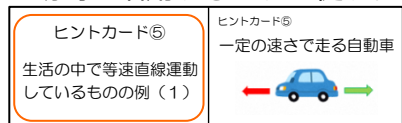
教師の手だて

主体的な学びの手だて 理論と実際の実験結果のずれに着目させて意欲を喚起し、実験で利用できる器具や時間、場所等を示すことで、見通しをもつて実験計画を立てる学習場面を設定する。

深い学びの手だて 等速直線運動をしない原因は何かという関係的な視点で考えさせることで、これまでの学習で身に付けた条件制御等の科学的に探究する方法を意識した実験計画の立案につなげる。

対話的な学びの手だて 情報収集係(班1名)が他の班の計画を見て回る時間を設け、収集した情報と自分たちの班の考えを比較させることで、より妥当な実験計画を考えるようにする。

- 力のつり合い等の既習の知識や日常生活と関連付けて考えることができるように、複数のヒントカードを用意し、補助的に活用するように促す。



〔ヒントカードの例〕

- 実験計画を立てるときに意識したことや実験を実施するときのポイントを振り返ることで、次時に行う実験の見通しがもてるようにする。

Point

探究の過程を意識した学習

探究の過程を意識した学習場面を設定し、生徒が知的好奇心をもって学習に取り組むとともに、見通しをもって実験計画の立案等ができるようにしましょう。

Point

見方・考え方を働かせる

関係的な視点を示したり、既習の条件制御等の考え方を想起させたりする等の手だてを行い、生徒が「理科の見方・考え方を働かせることができるようにしましょう。

Point

根拠に基づいた話し合い

自分の考えを他者と比較したり、科学的な根拠に基づいて議論したりして、自分の考えをより妥当なものにする話し合い活動にしましょう。



授業づくりの視点

授業の導入では、音楽の特徴と背景となる文化や歴史との関連を理解させる等、興味や関心を高める工夫をしましょう。

音楽によって喚起されたイメージを共感するコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を設定しましょう。

音楽のよさや美しさを感じ取らせることで、一人一人の学習の深まりにつながるようにしましょう。

授業実践事例

1 題材の概要 作曲者の思いを感じ取りながら曲を聴こう【第3学年】

「ブルタバ」の音楽を形づくっている要素（音色、速度、旋律、強弱）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受容する。また、作曲者の活躍した時代背景に関心をもち、その音楽の特徴を時代背景と関連付けて作曲者の思いを感じ取りながら鑑賞する題材である。

2 題材を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

曲想と音楽の構造との関わりや、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりを理解する。

思考力、判断力、表現力等

鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

学びに向かう力、人間性等

主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

3 題材のデザイン 全2時間

本題材の流れ	生徒の学びの姿
「ブルタバ」の音楽から、川のどのような情景を表現しているか想像して聴く	◎ 音楽の特徴から、どのような情景を表しているのか考える。 ・「我が祖国」を聴いて情景をイメージしてみよう。 ・「ブルタバ」の音楽の特徴は何だろう。 ・想像できる情景や川の流れなどをイメージしてみよう。
時代背景から作曲者の思いを考え、曲のどの部分にどのように表現されているか感じ取りながら聴く	◎ 作曲者の思いがどのように表現されているか感じ取りながら聴く。 ・「ブラハの春音楽祭」について説明を聞いて、楽曲のよさを考えてみよう。 ・DVDで1曲全て視聴し、様々な情景描写や感情、曲のイメージを感じ取ってみよう。 ・作曲者がブルタバを表す旋律に込めた思いは何だろう。

本時

○本題材における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○音楽の特徴と背景となる文化や歴史を想起させることで、音楽表現への興味や関心をもつことができるようにする。

対話的な学び

○音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりする等の言語活動を充実させることで、音楽表現を高めることができるようにする。

深い学び

○曲想や構造に着目し、音楽の背景と曲想との関わりや音楽文化について考えさせることで、曲のよさや美しさを捉えることができるようにする。

Point

鑑賞への
興味・関心

導入では、鑑賞への意欲を高めることが大切です。そのために、曲想と音楽の構造との関わり等に着目させ、作曲者の思いと表現の仕方などの鑑賞の視点をもたせましょう。

Point

鑑賞を深める
言語活動

作曲者の思いと表現の仕方に関連付けるために、音楽的な特徴を共有する言語活動を設定し、鑑賞したことについて話し合いを行いましょう。

Point

音楽のよさや
美しさの実感

終末では、学びの手応えを実感する場を設け、音楽のよさや美しさを捉えさせ、自分にとってどのような価値があるのかについて振り返ることができるようにしましょう。

作曲者の思いがどのように表現されているか感じ取りながら聴くことができる。

本時のねらい

本時の流れ

めあてをつかみ、学習の見通しをもつ

めあて

作曲者の思いがどのように表現されているか感じ取りながら聴こう

「プラハの春音楽祭」を聴き、作曲者の思いや表現の仕方について、各自の考えを基に話し合う

学習内容をまとめる

まとめ

作曲者が情景や思いを伝えるための曲想や表現の工夫を感じ取ることができた

振り返りをする

生徒の学びの姿

◎前時までの学習内容を確認し、本時のめあてをつかむ。

- ・スメタナが活躍していた当時の時代背景や心情が確認できた。



◎「プラハの春音楽祭」を聴き、作曲者の思いを感じ取る。

- ・「プラハの春音楽祭」について説明を聞いて、楽曲のよさを考えてみよう。
- ・DVDで1曲全て視聴し、様々な情景描写や感情、曲のイメージを感じ取ろう。

◎作曲者がブルタバの旋律に込めた思いについて話し合う。

- ・「ブルタバ」の旋律とイスラエル国歌の関連を考えてみよう。
- ・作曲者が「ブルタバ」の旋律に込めた思いを考えてみよう。

◎作曲者が情景や思いを伝えるための楽曲の表現の仕方についてまとめる。

- ・作曲者が情景や思いを伝えるために工夫していることを書いてみよう。

教師の手だて

主体的な学びの手だて 「我が祖国」を聴き、曲想と音楽の構造との関わりを考えた前時の学習を想起させた上で、「プラハの春音楽祭」を紹介し、作曲者の思いと表現の仕方に興味・関心をもたせる。

- 時代背景や作曲者の思いを捉えることができるように、板書やワークシートを工夫する。

対話的な学びの手だて 「プラハの春音楽祭」を聴き、楽曲の特徴をメモさせ、それを用いて時代背景や作曲者の思いについて話し合わせることで、ブルタバのよさや美しさに気付かせる。



- 「ブルタバ」の旋律とイスラエル国歌の関連について考えさせることで、作曲者の思いを捉えさせる。

深い学びの手だて 作曲者が情景や思いを伝えるための表現の仕方について、友達に向けた紹介文に書き表すことで、曲のよさや美しさを捉えさせる。

- 特徴的な記述について全体に紹介し、音楽の味わいをより深める。



授業づくりの視点

「A表現」の全ての題材で主題を大切にしましょう。1年生の「B鑑賞」では、生徒が見方や感じ方を広げられるようにしましょう。

形や色彩等の造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目してイメージを捉えたりする造形的な視点を大切にしましょう。

表現と鑑賞を関連させ、発想や構想、鑑賞をする際にも働く学習の中心となる考えを大切に授業を改善していきましょう。

授業実践事例

1 題材の概要 私の○○デザイン構成【第1学年】

生徒に生活の中で感じる色彩の特性や感情にもたらす効果に気付かせ、自分の好みや趣味等から発想して、自己を紹介する色彩構成の授業である。完成後はお互いの作品の主題を読み取らせるとともに表現の工夫にも注目させる題材である。

2 題材を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

色みや明るさ、鮮やかさ等の性質や、それらが感情にもたらす効果について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができる。

思考力、判断力、表現力等

作品や身近な製品等のよさや美しさ、形や色彩等が感情にもたらす効果等を考え、対象の特徴や面白さ等から主題を生み出し豊かに発想や構想を練ったり、作者の心情や表現の意図と工夫等について考えて見方や感じ方を広げたりすることができる。

学びに向かう力、人間性等

楽しく表現や鑑賞の活動に取り組み、形や色彩等が感情にもたらす効果等に気付いたり活用したりしようとする。

3 題材のデザイン 全11時間

本題材の流れ	生徒の学びの姿
色彩の特徴や感情にもたらす効果に気付く	◎身の回りのものを鑑賞し、色彩の特徴や感情にもたらす効果に気付く。 ・色には明るさや鮮やかさだけでなく、軽重等、感情にもたらす効果があるんだ。 ・商品のイメージにあった色が使われる等、美術が社会の中で活用されているね。
主題を生み出し、意図に応じて表現を工夫する	◎自分が好きなことやものから主題を生み出し、形や色彩の特徴や効果に着目しながら意図に応じて創造的な表現を工夫する。 ・アイデアスケッチを相互鑑賞したら、他の人の作品のよさや表現の工夫に気付くことができたし、形や色彩の特徴や効果に着目しながらアドバイスし合うと、課題解決のヒントに気付くことができた。 ・表したいことを、形や色彩等を効果的に用いたらイメージ等が伝えられた。
完成作品を相互鑑賞する 題材を振り返る 本時	◎完成した作品を相互鑑賞する。 ・作品に込められた作者の意図が読み取れたし、他の人が違った見方や考え方をしていることに気付いた。新しく知った視点を次の授業で活用したい。 ・色彩の特徴や感情効果は、生活の中でも活用されているので、もっと調べたい。

○本題材における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 題材と効果的な出会いを準備し、生徒の興味や関心を高める。
- 色彩の特徴や感情にもたらす効果が、身近な生活の中で効果的に活用されていることを理解させ、学びの意味に気付かせる。

対話的な学び

- アイデアスケッチや完成作品を相互鑑賞し、作品のよさや表現の工夫を感じ取らせ、新しい視点に気付かせる。
- 鑑賞して読み取った作品のよさ等を交流する場面を設定する。

深い学び

- 交流して得た作品に対する見方や考え方を基に作品について考えさせることで、色彩の特徴や感情効果等を捉えさせる。
- 身近なものに繋げ、生活の中の美術の働きについて気付かせる。

生徒の学びの質を高めるPoint
自分の授業に取り入れてみましょう。

本時のねらい

形や色彩の特徴や感情にもたらす効果に着目しながら、作品のよさや美しさ、表現の工夫を読み取ることができる。

本時の流れ

生徒の学びの姿

教師の手だて

本時のめあてを知る

めあて

形や色彩、イメージに注目して作品のよさや美しさ、表現の工夫を見つけよう

学級全体の作品を鑑賞し、自分なりの考えをもってから交流し、自他の感じ方や考え方の違いに気付く

学習内容をまとめる

まとめ

形や色彩の特徴、色彩の感情にもたらす効果を活用すると、意図を伝えたり、表現を工夫したりすることができる

振り返りをする

- ◎ **作品から造形的な視点を確認し、見通しをもつ。**
- ・形や色彩、イメージ等から作品のよさや工夫を見つけた。この視点で作品をもっと見たい。
- ・鑑賞後、キャプションを見たら、思ったよりいろんな表現の意図や工夫があって驚いた。



- ◎ **学級全体で鑑賞し、お気に入りの3点を選び、根拠も考える。**
- ・意図に合わせて様々な表現の工夫があり、形や色彩の特徴や効果を使っていた。



- ◎ **班ごとの発表から、見方や考え方の違いに気付く。**
- ・私が思ったのとは違う視点でよさや美しさを見つけていて驚いた。
- ・制作や鑑賞から、色彩の効果がとても影響することが分かった。



- ◎ **形や色彩の特徴や効果について確認し、身の回りの生活の中にもあるかを考える。**
- ・形や色彩を工夫すれば、意図に合う表現ができるし、作品も読み取れるんだな。もっと身の回りのものの工夫を探そう。

主体的な学びの手だて 作品紹介のキャプションを伏せて相互鑑賞を行い、自分なりの感じ取り方ができるようにする。

- ペアで鑑賞後、キャプションを紹介し合い、自分の感じた以外の工夫に気付かせる。
- 生徒の発表から、形や色彩、イメージ等といった〔共通事項〕を造形的な視点として押さえ、めあてにつなげる。

対話的な学びの手だて 造形的な視点を意識させて、作品のよさや美しさ、表現の工夫の面白さを捉えさせる。

- 鑑賞する際には、作品から感じたり考えたりした根拠についても考えさせる。

深い学びの手だて 交流して得た作品に対する見方や考え方を基に作品について考えさせることで、色彩の特徴や感情効果等を捉えさせる。



- 身の回りの生活の中から、色彩の特徴や感情効果が活用されているものを探させたり話し合わせたりすることで、生活の中の美術の働きに気付かせる。

Point

作品から自分の考えをもたせる

作品鑑賞では、生徒が自分の考えとその根拠をもってから対話する場面を設定しましょう。そのためには、鑑賞の視点を確認し、まず個人で見る時間を確保しましょう。

Point

根拠を交流する話し合い

対話を通して、生徒に自分とは違う見方や考え方があることに気付かせましょう。そのためには、根拠も一緒に発表させ、形や色彩、イメージ等をどのように捉えているか確認させるとよいでしょう。

Point

造形的な視点から考える

対話で得た見方や考え方をういて、もう一度個人で考えたり授業の目標にせまったりする場面を設定しましょう。そのためには、本時で何を学ばせたいかを教師が明確にもつことを大切にするとよいでしょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

生徒自らが運動についての課題の解決に向けて、試行錯誤や対話を重ね、主体的に取り組むことができるようにしましょう。

運動することの価値やその特性に着目させ、楽しさや喜びを体感することに加え、その運動が体力向上に果たす役割の視点からも捉えることができるようにしましょう。

よりよい課題の解決を図るために自分だけでなく友達の課題の解決についても考え、助言するなどの学習を取り入れましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 武道（剣道） [第2学年]

攻防を展開したり発展的な技を出したりする中で自他の課題を見付け、その課題を解決するために手本と自他の動きを比較し、助言し合う等の活動を通してその技ができる楽しさや喜びを味わう単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

剣道の特性や成り立ち、技の名称や行い方を理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて、相手の動きに応じて打ったり受けたりする等の簡易な攻防をする。

思考力、判断力、表現力等

攻防や発展的な技の習得に向けた自他の課題を見付け、課題の解決に向けて適切な方法を考え、技の行い方の工夫について考えたり、友達と助言し合ったりする。

学びに向かう力、人間性等

自他の課題の解決に向けて、練習の方法を自分で選ぶ等、主体的に考え活動するとともに、友達の助言や挑戦を尊重しようとする。

3 単元のデザイン 全12時間

本単元の流れ	生徒の学びの姿
単元の見通しをもつ	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 手本の動画を見て、単元全体のイメージをつかむとともに剣道の特性を踏まえ、友達との関わり合いの中で自他の課題をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 技や動きを組み合わせ、手本の動画のような一本を取れるようになりたい。 ・ 課題を解決するために留意するポイントを友達と協力して見付けたい。
基本となる技を習得する 課題の解決の方法を考え、適切な方法を選択し、試行錯誤や対話を重ね、応じ技を習得する 本時	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 技を出すタイミング等、基本となる技のポイントを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 技を出すタイミング等の留意するポイントは、それぞれの技で違うんだ。 ◎ 課題の解決に向けて自他で考えた解決の方法に気付き、選択して活動する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の動きをしっかりと見ながら技を出すことが大切だ。 ・ 習った技や動きを組み合わせると一本を取りやすくなるのが分かった。
技の発表会を行う 単元のまとめをする	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 技の完成に近付いたことや剣道の楽しさを実感する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の始めで見た手本に近付いている。 ・ 技が完成に近付いたり、相手と攻防することは楽しいな。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 手本の動画や技の完成に近づく練習方法を示すことにより、生徒に見通しをもたせる。
- 自他で考えた課題の解決の方法を大切に学習を振り返らせ、次への学びにつなげる。

対話的な学び

- 自分だけでなく友達の課題やその解決の方法についても考え、選択できるようにする。
- 友達と対話しながら自他の課題の解決に取り組む場を設定する。

深い学び

- 自他で考えた留意するポイントを意識して活動し、上達した要因について自分で考えたり、話し合わせたりして、技が完成に近付いていることを実感できるようにする。

自分の授業に取り入れて
みましょう。

Point

めあてを主体的
につかませる

手本を視覚的に確認するだけでなく、留意点を教師が場面に応じて示すことで、生徒が技の完成のイメージをもちやすくするとともに、めあてを自分のこととして捉えることができるようにしましょう。

Point

話し合う視点の
提示

話し合いに入る前に、もう一度めあてを生徒に意識させたり、教師が話し合う視点を示したりして、話し合う意義と内容を生徒一人一人が理解できるようにしましょう。

Point

学びを深める
活動

自分たちで考えた技のポイントを生かして活動するだけでなく、よりよい技にするために、もう一度班で考えたり、話し合ったりする活動を取り入れましょう。

応じ技である「面抜き胴」を効果的に打つための留意するポイントについて考え、技の完成に近付けることができる。

本時のねらい

本時の流れ

生徒の学びの姿

教師の手だて

学習の見通しをもち、本時のめあてを確認する

めあて

「面抜き胴」をよりよく打つためのポイントを見付けよう

手本と自他の動きとの比較から、「面抜き胴」のポイントについて個人で考えた後、友達と話し合う

見付けたポイントに留意し、班で活動する

学習内容をまとめる

まとめ

自他で考えたポイントで「面抜き胴」を打つと技が上達した

振り返りをする

- ◎「面抜き胴」の動画を見て、本時のめあてをつかむ。
- ・技のつながりを意識すると、技の完成に近付きそうだ。
 - ・相手の動き始めのタイミングをしっかり見るとうまく打てそうだ。



- ◎「面抜き胴」をよりよく打つためのポイントについて考える。
- ・打突部位を外すのは、手本と何が違うからだろう。
 - ・技を決めるためにもっと速く胴を抜くことが大切だ。

- ◎考えたポイントで活動し、さらによりよくするためのポイントについて考える。
- ・胴を抜くのが遅いからもっと速く抜いてみよう。
 - ・胴を速く抜くためには、面を打つ方も速く打つとよい。



- ◎学習を振り返り、分かったことをワークシートに書き、発表する。
- ・「面抜き胴」の留意するポイントを意識することで技の完成に近付いた。

主体的な学びの手だて 「面抜き胴」の動画に、教師が技を出すタイミングの解説を加えることで本時の見通しとめあてをつかむことができるようにする。

- 見通しをもちにくい生徒には、相手の動き始めを見ること等のヒントを示す。
- 生徒一人一人が考えた方法により活動させ、その様子をビデオで撮影する。

対話的な学びの手だて 手本と自分の動きを同時再生する動画を見た後に、本時のめあてを踏まえて、よりよく打つためのポイントについて話し合う場を設定する。

深い学びの手だて 生徒一人一人が留意するポイントによって活動した後、上手いかなかったことについて話し合わせ、互いに助言させるようにし、新たな気づきを促すようにする。

- 再度考えたポイントを意識させて、友達と助言し合いながら活動させる。
- できるようになったことや活動を通して気付いたことについて振り返るように助言する。



授業づくりの視点

社会性や安全性、環境負荷や経済性等の様々な視点に着目させ、よりよい考えを構想するために、他者と対話したり、協働して活動したりする場面を設定しましょう。

生活や社会の中から技術に関わる課題を設定し、丈夫さや機能等の条件を踏まえて構想し、製作等を行います。そして、その過程や結果を振り返り、よりよい生活に向けて新たな解決の視点を身に付けさせるようにしましょう。

授業実践事例

1 題材の概要

計測・制御のプログラミング【第2学年】内容D（3）

計測・制御の仕組みを理解し、ロボット掃除機のモデルをプログラミングする活動を通して、情報の技術が社会に果たす役割を認識し、よりよい生活に向けて新たな発想に基づく改良と応用について考える題材である。

2 題材を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

計測・制御システムの仕組みや、情報の技術が生活や社会に果たす役割や影響を理解する。安全・適切なプログラムの制作・動作の確認及びデバッグができる。

思考力、判断力、表現力等

社会や情報に関する様々な条件の基で、自ら課題を設定し解決する方法等を工夫したり、よりよい社会の構築に向けて、新たな発想で改良・応用したりすることができる。

学びに向かう力、人間性等

自分なりにプログラムを構想・制作し、その過程を振り返り、改善・修正しようとしたり、よりよい生活に向けて情報の技術を工夫し創造していこうとしたりする。

3 題材のデザイン

全10時間

本題材の流れ	生徒の学びの姿
題材の見直しをもつ	<ul style="list-style-type: none"> ◎計測・制御のプログラミングへの関心と、問題の解決に向けた意欲が高まる。 ・計測・制御システムの仕組みが分かった。 ・習ったことを生かして、自分でプログラムを組んでみたい。
プログラミングを行う	<ul style="list-style-type: none"> ◎市販の自動掃除ロボットの動きを観察し、プログラムを制作する。 ・教室をきれいにするためには、どんな命令を組み合わせたらいいのかな。 ・反復処理を使うと、プログラムが見やすく、効率もいいね。
動作確認し、修正する	<ul style="list-style-type: none"> ◎プログラムでセンサーを動かして、動作を確認し、修正する。 ・うまくいかない原因が分かった。修正して目的に沿った制御ができたぞ。
よりよい生活に向けて考える 本時	<ul style="list-style-type: none"> ◎生活と社会、環境との関わりを踏まえて、新たな発想に基づく改良と応用について考える。 ・プログラミングの知識を生かすと、災害時に役立つロボットの構想をいろいろ考えることができるな。

◎本題材における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○ロボット掃除機のモデルを用いて、教室をきれいにするためのプログラムを制作する学習や、その過程を振り返らせたり、改善しようとしたりすることで、新たな課題の発見をさせる。

対話的な学び

○自分が考えたプログラムを基に友達と対話して、プログラムを比較・修正・改善する活動を行わせ、よりよい考えを構想することができるようにする。

深い学び

○プログラムの制作という課題を解決する活動の中で、自分の考えを構想させたり、友達から助言を得たりすることで、情報の技術を活用した生活について、自分の考えを再構成させる。

本時のねらい

計測・制御のプログラミングの学習を生かして、災害時に役立つ機器やロボットを構想することができる。

本時の流れ

めあてを示し、学習の見通しをもつ

めあて

災害時に役立つ機器や、ロボットを構想しよう

課題を設定し、自分の考えを構想する

班で話し合い、検討する

自分の考えを練り直し、構想を工夫する

学習内容をまとめる

まとめ

機器やロボットの開発には、安全面等の様々な視点を踏まえる必要がある

振り返りをする

生徒の学びの姿

◎既習事項のポイントを確認し、本時の課題をつかむ。

- ・全国各地で災害があるね。
- ・自動掃除ロボットで学んだ計測・制御のプログラミングが生かせそうだ。
- ・災害時に役に立つ機器やロボットを考えてみよう。

◎災害時に役立つ機器やロボットの構想を考える。

- ・どんな機能をもっていれば、災害時に役に立つだろう。
- ・自動で動くためにはどんなセンサをつけたいかな。

◎自他の構想を、機能面・安全面・環境面・経済面等の視点から班で検討する。

- ・自動で動かすためにはどんなセンサが必要かな。
- ・センサが多くて、コストがかかりそうだ。
- ・どんなプログラムを組めば安全に動作するのか。

◎自分のロボットの構想を練り直す。

- ・災害時は何より人命救助が一番だから、コスト面は考えずに構想してみよう。
- ・人を安全に運ぶためにはどんなセンサがあればいいのかな。

◎本時で学んだことを確認し、自分の言葉で振り返る。

- ・身の回りの機器やロボットも、安全面や環境面等の様々な視点から考えられて開発されているんだな。

教師の手だて

主体的な学びの手だて

既習の計測・制御のプログラミング

が生かせる身近な問題として災害時を想定し、学習の見通しを持つことができるようにする。その際、災害状況を写真等で見せ、視覚的にイメージしやすくする。
※災害に関する内容を扱うため、家庭の状況に配慮する。

- 前回までの学習を振り返らせ、災害時の問題の解決に役立つロボットには、どのような機能が必要か、また、そのプログラムはどのようなものかを、考えさせる。

対話的な学びの手だて

機能面以外の様々な視点も提示してそれぞれの視点から構想のよい点や改善点について話し合わせることで、新たな視点に気付けるようにする。



深い学びの手だて

最適な解決策となるように、構想を複数の視点を踏まえて練り直し、技術の開発の場面で新たな発想に基づいて考えることができるようにする。

- 本時の思考の流れを振り返らせることによって、新たな機器やロボットを構想するためには機能が充実することだけではなく、安全面等の様々な視点や条件を踏まえる必要があることに気付かせる。

Point

課題解決意欲を
高める工夫

導入では、既習のプログラミング学習を生かせるような身近な生活上の問題を取り上げて、生徒の課題解決に向けた意欲を高めましょう。

Point

話し合う視点の
提示

機能面だけでなく、安全面、環境面、経済面等の様々な視点から自分の構想を見直すことができるように、話し合う視点を提示しましょう。

Point

構想を練り直す
場の設定

構想が最適な解決策となるよう、教師の助言や友達の意見を参考にして、自分の考えを練り直す時間を設けましょう。その際、言語化だけでなく、図や絵で表すことも大切にしましょう。



授業づくりの視点

生活の中から課題を設定できるよう、既習の知識及び技能や生活経験を基に自分の生活を見つめる場面を設定しましょう。

生活の課題を解決する際、よりよい判断ができるよう他者の考えを聞いたり自分の考えを伝えたりする場面を設定しましょう。

生活との関連を図った問題解決的な学習では、実践を自分で評価する場面を設定し新たな課題を見いだせるようにしましょう。

授業実践事例

1 題材の概要 自分らしく、快適に着よう【第1学年】 内容B（4）

小学校の学びを踏まえ、衣服の機能について関心を高め、衣服の選択、手入れについての基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、それらを活用して快適で豊かな衣生活を工夫しようとする題材である。

2 題材を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

衣服と社会生活との関わりが分かり、目的や個性に応じた着用、衣服の適切な選択や衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできる。

思考力、判断力、表現力等

生活の中から衣服の選択や手入れに関する問題を見だし課題を設定し、健康・快適等の視点から、衣服の選択及び日常着の手入れの仕方を考え、工夫することができる。

学びに向かう力、人間性等

快適で豊かな衣生活を展望し、身に付けた力を家族や地域の一員として、家庭や地域の中で生かして実践しようとする。

3 題材のデザイン 全12時間

本題材の流れ

生徒の学びの姿

題材の見通しをもつ

本時

◎ **快適で豊かな衣生活を送るために、生活を振り返り、課題を発見する。**
・学校の制服の不便なところを見直して、もっと快適なものにできないかな。

課題の解決方法と計画を検討する

◎ **快適で豊かな衣生活を送るために、衣服の選択及び日常着の手入れの仕方の工夫を調べたり、考えたりする。**

課題解決に向けた実践活動をする

・服を選ぶときに値段だけを気にしていたけど、今度から表示も見て選ぼう。
◎ **衣服の適切な手入れ方法を理解し、実践する。**
・衣服の手入れは親任せだった。洗濯方法やまつり縫いの方法が分かったから、これからは自分で服を洗ったり、裾がほつれたら自分で修繕したりできそう。

題材のまとめとして、学んだことを基にこれからの自分の衣生活の工夫を考える

◎ **快適で豊かな衣生活を送るために、衣服の選択や手入れの知識及び技能を生かし、さらに既習の環境のことも配慮した衣生活を工夫する。**
・服を買うときは表示を絶対に見るようにする。今着ていない服の処分は、捨てるのではなくて、親と相談してリサイクルショップへ持って行こうかな。

◎本題材における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 衣生活に対する興味や関心を高めさせるために、生徒にとって身近な「制服」を取り上げる。
- 課題解決に向けた実践的・体験的な活動を取り入れ、解決に向け、見通しがもてるようにする。

対話的な学び

- 快適で豊かな衣生活を送るための工夫について、健康・快適の視点で意見交換し、他者の意見を聞くことで新たな気づきを得て、考えに広がりや深まりをもたせるようにする。

深い学び

- 衣服の選択や手入れの実践と既習の環境への配慮を踏まえて、自分の衣生活を考えさせることで、快適で豊かな衣生活に向けて実践的な工夫をすることができるようになる。

生徒の学びの質を高めるPoint
自分の授業に取り入れてみましょう。

本時のねらい

社会生活を営む上での衣服の機能が分かり、理想の制服のデザインを考えることができる。

本時の流れ

生徒の学びの姿

教師の手だて

本時のめあてをつかむ

めあて
理想の制服をデザインしよう

理想の制服を個人で考えた後、班で話し合う

班で考えた理想の制服を発表する

班で考えた理想の制服を再度、見直す

学習内容をまとめる

まとめ
制服のデザインには、機能性や見た目、社会生活上の働きが大きく関係している

振り返りをする

◎前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。

・前の授業では、目的や個性に応じた着方について考えたな。

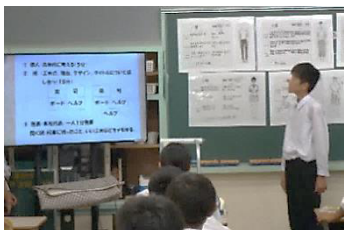
◎理想の制服を個人で考えた後、班で話し合いデザインをする。

・涼しさを感じるために、袖の長さはもう少し短いといいな。



◎班ごとに理想の制服のデザインと工夫点、その理由を発表する。

・派手すぎると印象が悪いので細めの幅のリボンにした。



◎他班の発表を聞き、自分達の理想の制服のデザインを見直す。

・今の制服のデザインに校章の刺しゅうを入れたら、もっと制服に愛着がもてるかも。

◎ワークシートに分かったことや今後知りたいことを書く。

・素材や手入れのことをもっと知らないと、これ以上は改善できないな。

○身近な制服を取り上げ、生徒の興味・関心を高めさせる。

主体的な学びの手だて

制服の不便なところに注目し、理想の制服に近づける改善策を考えさせることで日常の衣生活への課題意識をもたせる。

○理想の制服を考えやすくするため、項目に沿って工夫と理由を言葉でまとめさせる。その後、さらに具体的にするためにデザインを描かせる。

対話的な学びの手だて

互いの考えを可視化して情報共有しやすいように「ホワイトボード」を活用し、理想の制服について意見が出やすいように、項目に沿って検討させる。

	工夫	理由	
社会生活上の働き	東中の生徒いっしょに活動する校章をまじいりに付ける。ようにするため。	東中以外の学校に活動する校章をまじいりに付ける。ようにするため。	
見た目	すずい感じにする(白色・半ズボン)	夏だから。暑いから。白色は熱を吸収しにくいから。	
不便さの改善	動きやすいように素材と縫製と吸汗剤を使う。→汗でベタベタするのを防ぐため。	汚れが落ちやすいように。→白色は汚れが目立つから。	

〔ホワイトボードの記入例〕

深い学びの手だて

全体発表後、各班で考えた制服のデザインをもう一度見直し、快適な衣生活への工夫を改めて考えさせる。

○分かったことに加え、制服をよりよく改善するためにどんな知識が必要かを自分なりの言葉で書かせ、今後の授業への見通しをもたせる。

Point

めあてを主体的につかませる

前時の活動の振り返りや身近な生活の中の話から、生徒に課題意識をもたせ、生徒自身でめあてがつかめるようにしましょう。

Point

話し合いの可視化

課題解決に向けたよりよい考えをまとめられるように、ホワイトボード等を活用して、一人一人の考えを可視化して検討できるようにしましょう。

Point

新たな気づきを生む振り返り

振り返りの時間を確保し、学んだことやもっと知りたくなったことを自分なりの言葉で書かせ、新たな課題に気付かせたり、快適で豊かな衣生活に向けて次時への意欲をもたせたりしましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

技能統合型の授業を目指し、伝える内容を整理し、即興で情報を伝える等、言語活動を行う中で、「思考力・判断力・表現力等」の育成を図りましょう。

生徒が「英語に触れる機会」を最大限に確保し、授業が英語を使った「実際のコミュニケーションの場」となるよう、授業は基本英語で行いましょう。

小学校の学びとの接続を意識し、自分の考えや気持ちを伝え合う対話的な言語活動や既習表現を実際に活用する活動を充実させましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 将来の夢 [第2学年]

不定詞の三つの用法を理解し、自分の将来の夢について伝え合うことができるようにする単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

不定詞に関する知識を身に付け、目的、夢、希望の表現の仕方や情報を付け足す言い方を理解するとともに、それらを実際に活用し、スピーチを行う。

思考力、判断力、表現力等

友達と協働して文章を推敲したり、英語で自分の考えや気持ちを表現し、伝え合ったりする言語活動を通して、課題を発見し、表現や伝え方を工夫する。

学びに向かう力、人間性等

相手を尊重しながら、将来の夢について自分の考えや気持ちを伝えようとする。

3 単元のデザイン

全12時間

本単元の流れ	生徒の学びの姿
単元の見通しをもつ	◎ 自分の将来の夢についてスピーチを行ったり、友達の夢を聞いて人に伝えたりするという単元終末の言語活動についての見通しをもつ。 ・不定詞を使って、友達に自分の将来の夢を伝えたいな。
不定詞の用法を習得する 練習や自己表現活動、振り返りを重ねながら合理的な解決に向かう	◎ 不定詞の三つの用法に関する知識を習得するとともに、表現の練習や自己表現活動を繰り返し行う。 ・したいことはwant to do、夢はwant to be。他にも「～するために」という目的も表すことができるんだね。 ・後ろから名詞を修飾する場合にも、不定詞を使えば、より詳しく説明できるね。
言語活動を行う 本時 単元のまとめをする	◎ 既習事項を活用して、自分や友達の将来の夢について伝え合う。 ・将来の夢について、まとまりのある文でスピーチをすることができた。 ・自分の考えや気持ちを表現することがだんだん楽しくなってきたよ。 ・他者から得た情報を即興で伝えることは、日常生活でよく行うから大切だ。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○生徒にとって、身近な話題を題材に選んだり、不定詞を用いたスピーチのデモを見せたりすることで、興味・関心を高めたり、学習の見通しをもたせたりする。

対話的な学び

○ペアや班で対話を重ねながら、課題の解決に向かう場面を設定する。
○意見や考えを交流させることで、誤りや改善点に気付かせる。

深い学び

○既習事項や習得した知識を活用して言語活動を行う中で、改善点や気付きを全体指導で取り上げることで、新たな気付きや考えの再構築を促す。

本時のねらい

自分の将来の夢について発表したり、友達の夢を聞いて人に伝えたりして、言語活動に積極的に取り組むことができる。

本時の流れ

生徒の学びの姿

教師の手だて

学習の見通しをもつ

めあて

自分や友達の将来の夢を伝え合おう

班で、スピーチ原稿を仕上げ

ポイントを確認し、スピーチを行う

メモをとりながら友達のスピーチを聞く

メモを基に即興で内容を伝える

学習内容をまとめる

まとめ

まとまりを意識したスピーチをすることで、お互いの夢を分かりやすく伝え合うことができる

振り返りをする

◎既習事項やスピーチのデモを確認し、本時の言語活動のイメージをつかむ。

・前時の授業で、自分なりにスピーチを考えたけれど、友達に上手く伝わるかな。

◎友達と協働しながら、自分のスピーチ原稿を推敲する。

・正しく書いているかな。
・理由が二つあるから、ここに“I have two reasons.”を加えてみよう。



◎スピーチの基本形式や伝え方のポイントを確認し、スピーチをし合う。

・友達の表情を見ながら話すと、理解してくれているかが分かる。
・何になりたいかとその理由は、しっかり聞き取ろう。



◎メモを基に、友達から得た情報を別の友達に即興で伝える。

・メモだけを頼りに、相手に要点を伝えることは難しいな。
・今度は主語が変わるから、三単現の「s」が付くよね。
・次は「s」を忘れないように、気を付けて話そう。

◎本時で学んだことを確認する。

・より人に伝わるスピーチができるようになった。
・次は、正確に書きたいな。

主体的な学びの手だて

職場体験を話題に取り上げ、既習事項を確認したり教師がスピーチのデモを見せたりすることで、スピーチのイメージをもちやすくする。

対話的な学びの手だて

文と文のつながりや文の膨らませ方、もう少し聞きたい内容等について、友達と意見を出し合いながら考えさせる。

○「具体例を示した文は、夢の理由に合っているか」や「この文はどこに挿入すれば、説得力が増すか」等の発問を適切に投げかける。

○生徒とのやりとりから、スピーチをする際のポイントを引き出し、聞き手を意識しながら伝えるように促す。

○スピーチを聞く際の効果的なメモの取り方（聞き取るべき内容や簡単なメモの取り方）を伝える。

深い学びの手だて

共通して間違えている表現等は全体で取り上げ共有し、再度言語活動に取り組みさせるようにする。

○即興性を求める活動なので、相手に伝える「内容」を重視すればよいことも指摘する。

○学びを振り返り、即興で伝えた友達の夢を書いてくる課題を与えることで、学習内容の定着を図る。

Point

基本、授業は英語で

生徒の理解の程度に応じて英語を使用しましょう。言語活動のデモを見せたり、モデル文を提示し、説明を最小限に留めたりすることで、生徒が英語を使う時間を増やしましょう。

Point

サイクルの繰り返し

「言語活動」⇒「指導」⇒「再度言語活動」のサイクルを繰り返し、よりよい表現の仕方に気付いたり、自分の考えを修正したりする場面を設定しましょう。

Point

即興でアウトプットさせる

外国語で伝え合う力を育成するために、事前に原稿を準備した「発表」だけではなく、即興でアウトプットさせる等の言語活動を位置付けましょう。



授業づくりの視点

ねらいとする道徳的価値を、生徒が自分の生活に結び付けて考え、自己の生き方について見つめられるような発問や学習活動を取り入れましょう。

生徒が物事を広い視野から多面的・多角的に考え、判断し、表現する力等を育むために、自分の考えを基に議論したり、書いて表現したりする等の言語活動を位置付けましょう。

生徒の個人差のある発達や特性を考慮し、ねらいに即して、問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れる等、指導方法を工夫しましょう。

授業実践事例

1 主題の設定

強い意志

〔A希望と勇気、克己と強い意志〕

主題の概要

人間としてよりよく生きるには、目標や希望をもつことが大切である。しかし、目標の実現には様々な困難を乗り越えなくてはならない。困難や失敗を受け止めて希望と勇気を失わない前向きな姿勢や、失敗にとらわれない柔軟でしなやかな思考が求められる。

学級の実態

本学級の生徒は行事等に前向きに取り組むことができるが、自分の目標に向けて努力できず、投げ出す生徒もいる。本時では目標や希望をもち、困難や失敗があっても前向きな姿勢を失わず、目標に向けてやり遂げようとする意欲をもたせたい。

使用する教材の概要

事故で重傷を負った筆者は、周囲に心配かけまいと明るく振る舞う。恩師の一言で視点を転換させて、新たな語り部女優という目標を見付け前向きに生きようと決意する。困難を乗り越えて、前向きに生きることが充実した生き方になることを考えさせられる教材である。

2 本時の展開

本時のねらい

希望と勇気をもって最後までねばり強くやり抜こうとする態度を育成する。

本時の流れ

教師の発問と生徒の学びの姿

教師の手だて

「夢や目標を実現するために心がけていること」について想起し、本時のめあてをつかむ

めあて

夢や目標を実現するためには大切なことは何だろう

教材「やさしいうそ」を読む

筆者の気持ちの変化について考える

◎自分の「夢や目標」に向けて具体的に心がけたことやがんばったことはありますか。

- ・人付き合いを大切にする。
- ・特に何もしていない。
- ・体力をつけようと走った。

◎明るく振る舞う私の「体中につまっていたうそと不安」とは何だろうか。

- ・これからどうしよう。でも周りに心配かけたくない。
- ・本当はつらいけど誰にも言えない。

◎語り部女優を勧められ、私はなぜ「これをやれなきゃ自分じゃない」と思ったのだろうか。

- ・自分に残されたものは声だから、その声を生かしたいと思ったから。


主体的な学びの手だて

学校生活や部活動など自身の生活経験を想起させて、本時のめあてへつなぐ。努力したけど、うまくいかなかったこと等も出させて、自分との関わりで考えがもてるようにする。

- 事故により自分の未来に不安と絶望を感じる筆者の思いに共感して考えることができるように、内容を黒板へ整理して筆者の状況を視覚化する。

対話的な学びの手だて

様々な立場から筆者の発言や行動を考え、学級全体で話し合うことを通して、筆者が自分の境遇を受け止め、残された力を生かそうと視点を変えたことに気付かせる。

本時の流れ	教師の発問と生徒の学びの姿	教師の手だて
<p>現在の筆者の気持ちを考える</p> <p>自分の生き方を見つめ、考えを深める</p> <p>教師の話を聞く</p> <p>振り返りをする</p>	<p>◎「私は今、生きることが大好きです」と言えるのは、なぜだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も必要とされていることが分かったから。 <p>◎夢や目標を実現するために、大切にしたいことはどんなことだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困難なことでも乗り越えようとする強い気持ち。  <p>◎今日の学習で新たに気付いたことや考えたこと等を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで自分はすぐにあきらめてきたけど、希望をもって前向きに生活したいと思った。 	<p>○違う立場の視点で考えさせる補助発問や生徒に理由等を尋ねる問い返しで、筆者の心情を多面的に考えさせたり、自分の事として考えさせたりする。</p> <p>深い学びの手だて 筆者の生き方から夢や希望を実現するために何が大切かを考えることで、<u>自分の生活を振り返り、これからの自己の生き方を見つめさせる</u>。また意見を交流させて、違う見方や考え方を知ることで、自分の考えが深まるようにする。</p> <p>○教師が学級の日常の出来事等から願いを語り、道徳的価値をより身近に感じさせる。</p> <p>○筆者の姿から考えたことや新たな気付き等を書く活動を取り入れ、生徒が自分の考えを整理したり深めたりできるようにする。</p>

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、一定の時間や内容のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。
 ※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしてほしい教師の手だてを示しています。

3 評価	以下
<p>以下の二つの視点で教師が見取り、授業改善につなげ、学期末の個人評価の参考資料とする。</p> <p>道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか</p> <p>見取る方法：道徳ノートや発表等から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の決してあきらめない生き方を知って、自分も小さな事から挑戦したいと思った。 ・今まですぐにだめだと思ふことが多かったが、前向きに努力することが必要だと思った。 <p>自分の目標に向け粘り強く取り組もうという意欲の高まりを見取る。</p>	<p>一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか</p> <p>見取る方法：意見交流の観察や道徳ノート等から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者は困難を乗り越えて、本当に強くなったんだと気が付いた。 ・筆者の姿や友達の意見を聞いて、考え方が変わった。自分も目標を大切にしたい。 <p>新たな気付きや考えの広がりを見取る。</p>

生徒の学びの質を高めるPoint 自分の授業に取り入れてみましょう。

<p>Point</p> <p>生徒の生活からめあてにつなげる</p> <p>自分との関わりで考えさせるために、学校行事の写真を使う等、これまでの生活体験を想起させて、めあてにつなげましょう。</p>	<p>Point</p> <p>多様な考えをもたせる</p> <p>生徒の反応を予測して、違う道徳的価値からの発問や生徒に理由等を尋ねる問い返しを準備して、多様な考えがもてるようにしましょう。</p>	<p>Point</p> <p>自己を見つめる学習活動</p> <p>筆者の生き方と自分自身を照らし合わせる等、人間としての生き方を見つめるための活動を取り入れましょう。</p>
--	--	---

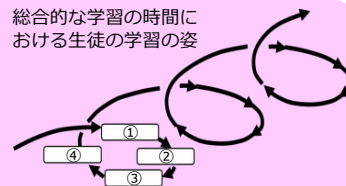


授業づくりの視点

「各学校における教育目標」と学習指導要領の「第1の目標」と踏まえて、各学校で総合的な学習の時間の目標を定めましょう。目標を実現するにふさわしい探究課題を設定し、その解決を通して資質・能力の育成を図りましょう。

学習活動を①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現の一連の探究のプロセスとなるように単元を構想しましょう。

総合的な学習の時間における生徒の学習の姿



授業実践事例

1 目標を実現するにふさわしい探究課題

地域学習を将来へつなげる [第3学年]

3年間の地域学習（海洋学習）の振り返りから、新たに地域の課題を見だし、その課題解決のために自らが社長となり、地域の活性化をミッションとして掲げる「地域の社長になろう～地域活性化の応援団～」の取組を通して、自らが地域に貢献できることを考え、自己を見つめる単元である。

2 探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

地域（ふるさと）のよさや課題を改めて知るとともに、課題解決のための情報を収集し、それを整理・分析したり、まとめたりする技能を身に付けることができる。

思考力、判断力、表現力等

3年間の地域学習（海洋学習）の振り返りから新たな課題を見だし、多面的な見方で発想を広げたり、解決の方策を考えたりし、意見を集約したポスターにまとめ、聞く人に伝わりやすいように発表することができる。

学びに向かう力、人間性等

地域についての探究的な学習に主体的に取り組むとともに、班で協働しながら考えを深め、地域の一員として自分の将来を考え、日常の学習や生活を見つめ直そうとする。

3 単元のデザイン

全5時間

本単元の流れ

生徒の学びの姿

【課題の設定】
3年間の地域学習（海洋学習）を振り返り、課題の設定を行う

- ◎「海洋学習」をキーワードとしたウェビングを用いて取組を振り返り、新たな課題を見だす。
 - ・海で活動したり、地域の方の話を聞いて考えたりしたね。
 - ・後継者不足等まだまだ課題があるな。
 - ・どうすれば地域が活性化するか。



〔海洋学習のウェビングの例〕

【情報の収集】
課題解決のための情報（アイデア）を収集する

- ◎ウェビングを用いて個人で考え、班で共有することで多様なアイデアを得る。
 - ・この地域ならではの海を生かして、多くの人に来てもらいたいな。
 - ・SNS等で地域の魅力を日本中に発信して、地域の活性化につなげよう。

【整理・分析】
課題解決に向けて、収集した情報（アイデア）を整理し、分析する

- ◎地域に根ざした架空の会社を班で一つ作り、社名・コンセプト、地域活性化に向けた事業内容を考える。
 - ・アマモ場再生活動を体験してもらったらいね。
 - ・地域の活性化の循環をつくらないといけないね。



【まとめ・表現】
課題の解決策をまとめ、表現する

本時

- ◎班の考えをポスターにまとめて発表し、異なる視点や考え方のよさを生かして、将来の地域の姿や自分の将来を考える。
 - ・新しいことを考えていたけれど、今の地域のよさを生かすことも大切だね。
 - ・地域のよさを改めて考えることができた。地域の一員としてがんばりたい。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○新たな探究課題を自分事として学びを進められるようにするために、3年間の地域学習（海洋学習）の取組を写真やウェビングで振り返らせる。

対話的な学び

○ウェビングを活用して情報（アイデア）を可視化したり、他者から多様な情報を収集したりしながら、他者とともに課題解決に向けて活動する場を設定する。

深い学び

○「まとめ・表現」をする際に、各教科等で身に付けた知識や技能を意識させ、ポスターを作成したり、相互に質疑をしたりする場を設定する。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしてほしい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開

第5時／全5時

生徒の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

本時のねらい

- ・聞く人に伝わりやすいように発表し、各班の考えのよさに気付く。
- ・将来の地域の姿を考えることで、自分の将来について考えたり、日常の学習や生活を見つめ直そうとしたりする。

本時の流れ	生徒の学びの姿	教師の手だて
<p>前時の学習を想起し、本時のめあてをつかむ</p> <p>めあて 各班の会社のよいところを探し、将来の地域の姿について考えよう</p> <p>各班の発表と質疑を繰り返す</p> <p>発表について全体でまとめる</p> <p>まとめ どの班の発表にもよさがあり、その実現のために地域の一員として期待されている</p> <p>学習を振り返り自己を見つめる</p>	<p>◎前時の学びを振り返り、本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の班の発表も参考に将来の地域の姿についてじっくり考えよう。 <p>◎地域活性化に向けた会社の事業内容等を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞く人に会社のよさや内容が伝わる発表をしよう。 <p>◎それぞれの班の工夫点や質問したいこと考えながら聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の班はどのように活性化させようとしているのかな。  <p>◎課題解決に向けた、より実行性のある方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なるほど、クーポンを配っても経済の循環が起きて赤字にはならないのか。 ・循環という発想がいいね。 <p>◎考えが実現した地域を想像し、将来の自分について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のよさが改めて分かり、もっと好きになったな。 ・自分も地域の一員として、将来の夢に向かってがんばろう。 	<p>主体的な学びの手だて これまでに作成したウェビング図を基に学びを振り返り、発表を通して自分の考えをより明確にすることを意識付ける。</p> <p>対話的な学びの手だて 発表者は「質問がありますか」と問い掛け、聞き手からアイデアを引き出す等、自分たちで質疑を進め、よくするための情報を集めることで、課題解決に向かうようにする。</p> <p>深い学びの手だて 各教科の知識を生かした発言を全体場で取り上げることで価値付けを行い、一人一人の学びを自覚化させるようにする。</p> <p>○「中学生のみんなには地域の応援団になってもらいたい」という地域の方からの言葉を取り上げ、地域の一員として、地域とともに自分の将来について考えさせる。</p>

Point

自分事として学ぶ

生徒の考えや思いが表現された成果物等を活用することで、学ぶ目的を自分事として捉えられるようにしましょう。

Point

課題解決に向けた対話

課題解決に向けた発表や質疑にするために、質・量ともに課題に対応した情報となるように意識したり、発表方法を工夫したりしましょう。

Point

各教科の学びを生かす

自分の考えをより確かにするために、各教科等で身に付けた知識や技能等を活用して説明したり、考えを比較したりすることを意識するようにしましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

生徒が学級や学校における生活上の諸問題を見だし、解決方法を決めて実践し、振り返ることで、その取組のよい点や改善点に気付かせるようにしましょう。

学級活動（２）では、生徒の日常生活の実態を捉えた上で教師が身近な題材を設定し、話し合い活動を通して個人目標を意思決定させます。決めたことに粘り強く取り組むことで、自分がした活動やその努力へ自信を深めることにつながります。

授業実践事例

1 題材の概要 よりよい学級生活を送るために〔第1学年〕 学級活動（２）

気持ちのよい学級生活を過ごすために、学級生活のマナーを向上させることについての話し合い活動を行い、自ら実践できる目標を立て、実践し、振り返る題材である。

2 題材を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

学級生活をよりよくするために、マナーを向上させる意義について考え、個々の意識の向上が学級の意識の向上につながることを理解する。

思考力、判断力、表現力等

学級生活のマナー意識の向上について考え、友達との話し合いを通して様々な考え方や視点に気付く中で、よりよい学級生活を送るための個人目標を意思決定する。

学びに向かう力、人間性等

学級生活のマナーについての考えを深め、気持ちのよい学級生活を送るために積極的に実践し、よりよい自分の姿を目指そうとする。

3 題材のデザイン

本題材の流れ	生徒の学びの姿
○事前の活動 題材の見通しをもつ	◎ アンケートを基に学級生活を振り返り、よりよい学級生活を送るための問題意識を高める。 ・名前を呼ばれても、きちんと返事ができていないことがある。 ・みんなで使うものを大切に扱う意識が低いことがある。
○本時の活動 よりよい学級生活を送るために意思決定する 本時	◎ よりよい学級生活を送るために、お互いのマナー意識とマナーを守ることの意義を考えた上で、個人目標を意思決定する。 ・マナーを意識することで、みんなが気持ちよく過ごせることが改めて分かった。 ・お互いに気持ちよく過ごすために、思いやりのある言動をするぞ。
○事後の活動 意思決定したことを実践し、振り返る	◎ 自分で決めたことを実践し、よりマナーを意識した生活をする。新たな課題や活動の工夫に気付く。 ・みんながマナーを意識して生活すると、お互いに気持ちよく生活できているね。 ・さらによりよい学級生活を送るために、新しい係活動を提案したいな。

○本題材における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○よりよい学級生活を送るために、問題になっていることを事前アンケートから把握させることで、マナーの向上について、生徒一人一人の課題意識を高めさせる。

対話的な学び

○話し合いや各班からの発表を通して、友達の見解と自分の意見との共通点だけでなく、相違点も考えさせることで、友達のことを理解した上で、自分の考えをもたせる。

深い学び

○個人目標の実践は、期間を設けて行い、振り返りでは、問題解決の方法等を工夫させることで、学級生活を送るための新たな問題意識をもたせる。

4 本時の展開

生徒の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

生徒の問題意識を高める

授業の導入では、事前にとったアンケートの結果を基に、生活上の問題を表やグラフ等にまとめたものを提示し、個々の生徒の問題意識を高められるようにしましょう。

Point

話し合いを基に考えを広げる

話し合いでは、自分の意見との共通点だけでなく、相違点についても考えさせましょう。そして、友達の考えを理解した上で、自分の考えをもたせましょう。

Point

問題解決のために深く考える

生活上の課題を解決するために、友達の意見を踏まえて自らの生活を振り返ることで、自分の目標や課題の解決方法等について意思決定させるようにしましょう。

お互いに気持ちのよい学級生活を送るために、マナーについて自分ができることを意思決定し、よりよい学級集団づくりへの意識を高める。

本時のねらい

本時の流れ

めあてを示し、学習の見通しをもつ

めあて

よりよい学級生活を送るために、実践できる個人目標を立てよう

自分のマナー意識について考え、班で話し合う

班で話し合ったことを全体で発表する

個人目標を意思決定する

振り返りと授業後に取り組む活動の確認をする

生徒の学びの姿

◎ アンケート結果を共有し、本時のめあてをつかむ。

- みんな学級生活のマナーを向上させたいと思っているんだね。
- しっかり考えて、気持ちのよい学級生活を送れるようにしたいね。

◎ 自分のマナー意識について考え、マナー意識を高めることの意義を班で話し合う。

- 思いやりをもった言動への意識が低いことがある。
- 自分のものだけではなく、みんなのものも大切にしている。
- マナー意識の向上は、将来に役立つと思うよ。
- 周りの人からの信頼を得ることができるね。

◎ 班で話し合ったことを発表し、学級全体で共有する。

- 気持ちのよい学級生活を送りたいという思いは、みんな一緒だということが分かった。

◎ 自分の学級生活を振り返り、個人目標を意思決定する。

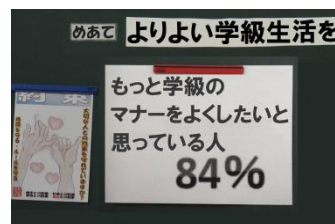
- 相手の気持ちを考えて、言葉遣いに気を付ける。
- 掃除時間以外でも、積極的に教室の美化活動に努めよう。
- 学級の一人一人がマナー意識を高めて取り組んでいけば、みんなが気持ちよく過ごせる学級集団になるんだな。

◎ 本時で学んだことを学級生活で実践していくことを確認する。

- 自分で決めたことは必ず意識して、実践しよう。

教師の手だて

主体的な学びの手だて アンケート結果を基に、学級生活のマナーについての現状を把握させ、問題意識を高める。



対話的な学びの手だて 話し合いを通して、自分の意見と友達の意見との共通点だけでなく、相違点についても考えるよう促し、様々な考え方や視点があることに気付かせる。



- 発表内容をまとめ、学級全体としてマナー意識の向上に向けて共通理解をさせる。

深い学びの手だて 友達の意見を尊重しながら、自分の学級生活でのマナーや態度を振り返らせることで、問題解決の視点をもちやすくし、実践できる具体的な個人目標を意思決定させる。

- 意思決定した目標の実践意欲を高めるために、目標の達成状況を毎日の振り返りにより確認することを知らせ、授業後の活動の見通しをもたせる。



平成30年度 岡山県総合教育センター所員研究
(共同研究；教科教育)

「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり（実践事例編）」研究委員会

指導助言者

村上 尚徳 環太平洋大学副学長、教授

協力委員

橋本 久美 倉敷市立庄小学校指導教諭
絹田 景輔 備前市立吉永小学校指導教諭
小松万里子 玉野市立鉾立小学校教諭
中嶋 智子 新見市立高尾小学校教諭
坂江 至 真庭市立勝山小学校教諭
名合恵理子 早島町立早島小学校教諭
河田かおり 吉備中央町立下竹荘小学校教諭
難波 愛 倉敷市立東中学校教諭
大塚 康広 津山市立北陵中学校教諭
神谷 由紀 津山市立中道中学校教諭
橋本 宜明 笠岡市立笠岡東中学校教諭
藤田 和美 笠岡市立笠岡東中学校教諭
安井 徹人 総社市立総社中学校教諭

実践事例提供者

篠原 孝昭 笠岡市立金浦小学校指導教諭
濱浪 雅登 玉野市立宇野中学校指導教諭
近藤 圭亮 津山市立中道中学校指導教諭
若松真美子 倉敷市立第二福田小学校教諭
坂川 奈々 倉敷市立琴浦南小学校教諭
塚本 友香 井原市立芳井小学校教諭
下川 愛子 赤磐市立磐梨小学校教諭
太田 千尋 和気町立和気小学校教諭
鐘ヶ江遥奈 吉備中央町立吉備高原小学校教諭
大谷 良子 津山市立津山西中学校教諭
近藤 賢 備前市立日生中学校教諭
三垣 優子 浅口市立寄島中学校教諭
本田 温子 和気町立佐伯中学校教諭
能勢 樹葉 県立岡山大安寺中等教育学校教諭

研究委員

藤原 敬三 教科教育部長

山田 稔	教科教育部指導主事	福田 知子	教科教育部指導主事
鈴木 隆幸	教科教育部指導主事	平田 朝一	教科教育部指導主事
岩佐奈津子	教科教育部指導主事	山本 結城	教科教育部指導主事
久次 正浩	教科教育部指導主事	大辻慎一郎	教育経営部指導主事
小倉 馨	教科教育部指導主事	谷岡 奈央	教科教育部指導主事
室川 基	教科教育部指導主事	桐野 隆江	教科教育部指導主事
難波 玄	教科教育部指導主事	伊藤 昌訓	教科教育部指導主事

平成31年2月発行

「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり（実践事例編）」

【編集兼発行所】 岡山県総合教育センター

〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11

TEL: (0866) 56-9101 FAX: (0866) 56-9121

URL: <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>

E-mail: kyoikuse@pref.okayama.lg.jp

新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり (実践事例編)



©岡山県マスコット
ももちとうらっち

- ◆ 平成29年3月に公示された新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりについて、具体的な実践事例を冊子にまとめました。

平成29年度に作成した「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり」と本冊子を併せて活用し、児童生徒の学びの質を高める授業づくりに役立てていただけたらと思います。

